

海と
生きる

「海と生きる」気仙沼

海洋プラスチックごみ対策アクション宣言(案)

～海洋プラスチックごみゼロを目指して～

プラスチック製品は、利便性や経済性に優れ、レジ袋やペットボトルだけでなく、漁具、合成繊維の衣類、化粧品などに使用されるマイクロビーズなど、私たちの生活において広く使用されています。

一方で、プラスチックは環境中で分解されにくく、意図的な投棄によって、あるいは非意図的であっても不適切な処理や不十分な管理によって、海洋に流出し、生態系を含む海洋環境に大きな影響を与えており、地球規模での問題となっています。

こうした海洋プラスチックごみによる海洋汚染の問題は、水産資源や漁業など本市の基幹産業への直接的な影響だけでなく、消費者の安心・安全の確保、観光やレジャー、海岸域の居住環境への影響、船舶航行への障害なども懸念されており、産業基盤や生活基盤を脅かす非常に重要な問題であります。

G20大阪サミットでは、海洋プラスチックごみ問題も主要テーマの1つとして取り上げられ、共通の世界ビジョンとして、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有しました。

漁業とともに歩み、発展し、「海と生きる」を標榜する気仙沼市は、この問題にいち早く取り組み、海洋プラスチックごみ対策の先進地として全国に取組を広げていく責任があります。

このため、各主体が連携協働し、「アクションプラン」を定め、沿岸域でのプラスチックごみの徹底した回収と処理、陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制、プラスチックを利用する人の意識啓発などに責任を持って取り組むことで、海洋に流出するプラスチックごみゼロを目指すことをここに宣言します。



2019年9月4日

気仙沼市海洋プラスチック対策推進会議